

令和2年度

安曇川高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・基礎学力の充実に努め、生徒の幅広い進路の実現に向け、確かな学力の定着を図る。
- ・高校生活を充実させ、豊かな人間性を培い集団生活を豊かにするため、基本的生活習慣の確立に努める。
- ・保護者や地域社会への情報発信に努めるとともに、本校の教育について理解と信頼を得ることに努める。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	確かな学力、豊かな人間性の育成などの教育目標に基づいて教育活動を推進している。	A	A	A
	教育方針や教育目標、教育活動に関する情報提供を適切に行っている。	A	A	A
2 学習指導	授業を中心とした教科指導の充実に努めている。	A	A	A
	学業不振・学業不適應の生徒に対する適切な指導と学力の向上に努めている。	B	A	A
3 生徒指導	基本的な生活習慣の確立のために適切な指導を行っている。	A	A	A
	県高P連の3ない運動を推進し、交通安全のルールを遵守する指導を行っている。	A	A	A
	いじめを重大な問題ととらえ、いじめの未然防止を図り早期発見と早期解決に努めている。	A	A	A
4 進路指導	生徒一人ひとりの能力・適性に応じた進路指導を適切に行い、キャリア教育に取り組んでいる。	A	A	A
	生徒に自己を正しく理解させ、生徒の学力向上・意識の高揚を図っている。	A	A	A
5 特別活動等	生徒の実態や状況に応じた活動の計画・実施に努めている。	A	A	A
	生徒会活動や部活動について生徒が主体的に活動できるように指導している。	B	A	A
6 学校図書館	生徒の読書への関心を高めるために、図書館便りを発行するなど啓発活動に取り組んでいる。	A	A	A
	図書の展示や配置を工夫するなど、生徒が利用しやすい図書館づくりに努めている。	A	A	A
7 保健・安全指導	生徒自身が心身の健康管理をできるように支援している。	A	A	A
	防災教育や防災避難訓練を通して防災意識の高揚に努めている。	A	A	A
8 人権教育	LHRなどを活用し、人権意識を高める指導を行っている。	A	A	A
	生徒の教育的ニーズに応じた援助をしている。	A	A	A
9 環境教育	ごみの減量化と分別収集など啓発し、生徒の環境問題に対する意識を高めている。	A	A	B
	日常掃除の徹底により、生徒の美化意識を高めている。	A	A	A
10 事務・管理	施設・設備の適切な管理に努めている。	A	A	A
	文書保存を適切に行っている。	A	A	A
11 その他 学校の取り組み	学校と家庭との連携による活動を積極的に行っている。	A	A	A
	体育祭や文化祭など地域との連携を図っている。	A	A	A

- (注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
 10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価) A B C Dの4段階評価で示す。
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価) A B C Dの4段階で示す。
 ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
 ・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。

学校のURL : <http://www.ado-h.shiga-ec.ed.jp/>